此（コ）レガ…日本（ニホン）ノ…マツリダヨ…

極東退屈道場列島縦断

キョクトウタイクツドウジョウ　レットウジュウダン

「サブウェイ」

列島縦断延伸ツアー

（大阪・東京・札幌・仙台・福岡）

◎作・演出…林慎一郎　◎振付…原和代

第18回OMS戯曲賞大賞受賞作品

三度目の「サブウェイ」上演。全国の地下鉄保有都市をできるだけ縦断してみることにしました。
メトロとか、チューブとかいろいろと呼び方はあるが、サブウェイは地下鉄のこと。
都市にしかない公共交通機関、なぜならオカネがかかるから。
朝の地下鉄はあいかわらず満員。目的地につくまでの時間をやりすごそうと、中吊りを必死に読む。
誰も喋っていないはずなのに、なんだかすごく騒々しい。
窓の外は真っ暗。壁のむこうに積みかさなる歴史をくりぬくチューブの中。
頭に流れ込んでくる乗客たちの音にならない言葉を聞くと、あいかわらず笑ってしまうのです。

—— 林 慎一郎

極東退屈道場（キョクトウタイクツドウジョウ）

「サブウェイ」列島縦断延伸ツアー（レットウジュウダンエンシン）〔大阪・東京・札幌・仙台・福岡〕 第18回OMS戯曲賞大賞受賞作品

◎作・演出：**林 慎一郎**　◎振付：**原 和代**

◎出演：**あらいらあ、井尻智絵、小笠原 聡、門田 草**（Fellow House）、**後藤七重、猿渡美穂、中元志保、ののあざみ**

札幌公演 シアターZOO提携公演 Re:Z

日程：2013年**5月31日**(金)～**6月2日**(日)

金額：前売**2,500**円／当日**2,800**円／ペア**4,500**円（前売・予約のみ）

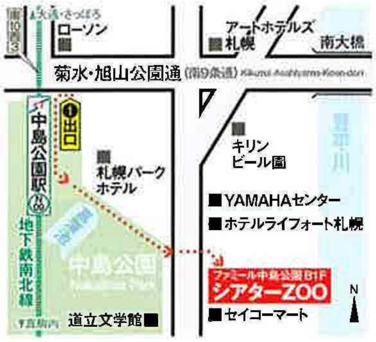
ユース料金**1,500**円（22歳以下）（前売・予約のみ）／高校生以下**1,000**円（前売・当日とも）

〔開演時間〕※開演の40分前受付開始、開演の30分前開場。

31（金）19:30
1（土）14:00／18:00
2（日）14:00

主催：極東退屈道場、北海道演劇財団、NPO法人札幌座くらぶ

場所：**扇谷記念スタジオ・シアターZOO**
〒064-0811 札幌市中央区南11条西1丁目ファミール中島公園B1F
地下鉄南北線「中島公園駅」(N08) ❶番出口より徒歩5分
011-551-0909　http://www.h-paf.ne.jp/ogist/



南10西3
大通・さっぽろ
ローソン
アートホテルズ札幌
南大橋
菊水・旭山公園通（南9条通）Kikusui-Asahiyama-Koen-dori
中島公園駅 N08
地下鉄南北線
❶出口
札幌パークホテル
キリンビール園
豊平川
YAMAHAセンター
ホテルライフォート札幌
中島公園 Nakajima Park
ファミール中島公園B1F シアターZOO
N
セイコーマート
道立文学館
幌平橋

仙台公演

日程：2013年**6月28日**(金)～**30日**(日)

金額：前売**2,500**円／当日**2,800**円／ペア**4,500**円（予約のみ）

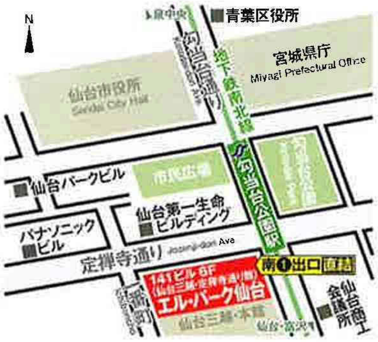
ユース料金**1,500**円（22歳以下）（予約のみ）／高校生以下**1,000**円（予約のみ）

〔開演時間〕※開演の45分前受付・当日券販売開始、開演の20分前開場。

28（金）19:30
29（土）14:00／19:30
30（日）14:00

主催：極東退屈道場　助成：公益財団法人仙台市市民文化事業団
後援：仙台市　制作協力：森忠治（トライポッド）

場所：**エル・パーク仙台 スタジオホール**
〒980-8555 宮城県仙台市青葉区一番町4-11-1 6F
地下鉄南北線「勾当台公園駅」南❶出口に直結
022-268-8300　http://www.sendai-l.jp/whats/



N
青葉区役所
勾当台通り
地下鉄南北線
宮城県庁 Miyagi Prefectural Office
仙台市役所 Sendai City Hall
仙台パークビル
市民広場
勾当台公園
勾当台公園駅
仙台第一生命ビルディング
パナソニックビル
定禅寺通り Jozenji-dori Ave
南❶出口直結
141ビル 6F エル・パーク仙台
仙台三越・本館
仙台商工会議所

福岡公演 2013福岡舞台芸術シリーズ『FFAC PLUS＋』

FFAC 公益財団法人福岡市文化芸術振興財団

日程：2013年**7月26日**(金)～**28日**(日)

金額：前売**2,500**円／当日**2,800**円／ペア**4,500**円（前売・予約のみ）

学生**2,000**円（前売・当日とも）
「FFAC PLUS＋」ラインナップのチケットがお得に買える「ニコ割」受付中！詳細は http://www.ffac.or.jp/ にて!!

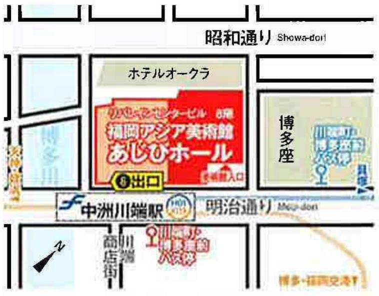
高校生以下**1,000**円（前売・当日とも）／高校演劇部割引**500**円（要予約・福岡県内のみ）

〔開演時間〕※開演の40分前受付開始、開演の30分前開場。

26（金）19:30
27（土）14:00／18:00
28（日）14:00

主催：極東退屈道場、公益財団法人福岡市文化芸術振興財団、福岡市
協力：NPO法人FPAP

場所：**福岡アジア美術館 あじびホール**
〒812-0027 福岡市博多区下川端町3-1 リバレインセンタービル8F
地下鉄空港線・箱崎線「中洲川端駅」(K09/H01) ❻出口より徒歩すぐ
092-263-1100　http://faam.city.fukuoka.lg.jp/



昭和通り Showa-dori
ホテルオークラ
博多川
リバレインセンタービル 8階 福岡アジア美術館 あじびホール
博多座
川端町・博多座前バス停
❻出口
中洲川端駅
明治通り Meiji-dori
上川端商店街
博多・福岡交通
N

「FFAC PLUS＋」とは、（公財）福岡市文化芸術振興財団（FFAC）が、他地域の優れた舞台芸術作品の鑑賞機会を提供すること、それらの鑑賞機会を通じて観客及びアーティストの活性化を図ることを目的として、全国から公演企画を公募し実施しています。

札幌公演 **http://ticket.corich.jp/apply/43901/**

仙台公演 **http://ticket.corich.jp/apply/43902/**

福岡公演 **http://ticket.corich.jp/apply/43903/**

▲ネット予約（CoRich）「こりっち サブウェイ」で検索

チケット関連情報〔発売日：［札幌・仙台］2013年4月2日(火)　［福岡］2013年6月4日(火)〕

▼札幌公演チケット取扱　◎シアターZOO TEL 011-551-0909

▼仙台公演チケット取扱
◎せんだい演劇工房10-BOX
◎book cafe 火星の庭

▼福岡公演チケット取扱
◎福岡市文化芸術振興財団
TEL **092-263-6265**　e-mail **npo-b@ffac.or.jp**
◎文化芸術情報館アートリエ（福岡アジア美術館7F）
10:00～20:00（水曜休館）

▼メール・電話予約（札幌・仙台・福岡共通）
TEL & FAX **06-6841-3432**（ハヤシ）　e-mail **ticket@taikutsu.info**
※留守番電話もしくはFAXの場合は お名前、ご希望の日時・枚数とご連絡先をお知らせください。　※お名前、ご希望の日時・枚数、ご連絡先をご記入ください。

◎お問い合わせ　TEL & FAX **06-6841-3432**（ハヤシ）　e-mail **askto@taikutsu.info**
極東退屈道場 Webサイト **http://taikutsu.info**
「サブウェイツアー」特設サイト **http://www.subwaytour2013.info/**
facebookページ **http://www.facebook.com/subway2013/**

極東退屈道場（キョクトウタイクツドウジョウ）プロフィール

2007年、作・演出の個人プロデュースとして発足。最近は、振付家の原和代との共同作業によって モノローグとシーンの断片をコラージュし、可笑しくも鋭く現代を浮かび上がらせることを試み「ザッピングメタフィクション」と称される。2010年に上演した「サブウェイ」が好評を博し、翌年、大阪・東京で再演、「佐藤佐吉演劇賞2011」を席巻。第18回OMS戯曲賞大賞を受賞。今回が三度目の上演、全国の地下鉄保有都市を巡る。

【スタッフ】舞台監督＝塚本修（CQ）／舞台美術＝柴田隆弘／照明＝魚森理恵（GEKKEN staff room）
照明操作＝檜木順子（仙台・福岡）／音響＝あなみふみ（ウイングフィールド）／衣装＝大野知英（iroNic ediHt DESIGN ORCHESTRA）
宣伝美術＝清水俊洋／舞台写真＝石川隆三／制作＝尾崎雅久（尾崎商店）

第18回OMS戯曲賞選評より——**生田萬**「…この作品にかかると、世界はすべて「チャラ」く見える。つまりそれは、サブウェイが表通りを恥ずかしげもなく駆け抜ける、深層を欠いた都市の風景なのだ。痛々しいまでのカリカチュアライズにより、作者は痛切な思いをそこに凝縮させる。痛快！／**佐藤信**——「劇場や演劇は「過去」や「現在」ではなく、いつも人びとの「未来」とむきあわなければならない。都市の地下網を縦横に疾走する「なにか」。独創的な演劇文体でその「なにか」をわれわれの「未来」として鮮やかに掴み出した。／**鈴江俊郎**——私の第一印象はそういうものではなかった。都会の無機的な気分、軽いうつ状態を必然とするような生活の断面をよく切り取る佳作、という程度のものだった。作家のさらなる進化に期待したい。／**松田正隆**——「二つの日本に生きる私たちの無意識を神話的に描き、見事な戯曲作品として完成させ、産出していた。洗練された文化批評でもある。かなり高度な演劇としての「知」を提起していた。それは、私たちの絶望的な時間の世界が、「いまはこうなっている」という情報へと導く灯火でもある。／**渡辺えり**——「私たちは寄せ集めだが、つぎはぎだらけであるが、まだ未来を信じる。演劇の未来を信じる」この戯曲のテーマをざっくりとまとめるとこうとらえることができる。